

令和7年度 第3回 学校運営協議会

10月27日（月）に開催されました。

Which way to go?

館林商工高等学校がこれら進む道は？



1 挨拶

(1) 会長より

第3回の協議会の開催にあたり「**思い込みをなくす**」ことの重要性について、紹介したい。これは先日、川俣駅前に開業したホテルの経営方針を示したものである。進出当初、明和町に宿泊する人がいるのか、という疑問の声もあったが、需要の掘り起こしに成功した。この会議も「思い込みをなくす」ことで、活発な議論となることを期待したい。

(2) 校長より

先日、県知事より全県下での高校再編整備について問題提起があった。太田・邑楽・館林地区では私立高校2校・公立高校13校が存在し、既にこの地区の情報交換会が一度開催された。本校が「残る・残らない」という視点ではなく、この地域の学校の適正配置の在り様を今後、検討することになる。この会議での熟議が意義深いものになることを期待している。

2 第1回学校運営協議会の提言を受けた学校側の回答（対応・活動等）について

〔13の提言と1つの提案のうち5つに絞って記載〕

- (1) 提言：小中学校では、教育課程に地域活動を位置付けて地域貢献をしており、それが学校と地域のwin-winの関係になっている。地域活動参加を自主的に考えることで、自分の責任として活動できる。

回答：教育課程上は課題研究及び特別活動（部活動）が該当する。工業科では様々な製作物を公共の場に寄付し多くの方々に利用してもらっている。商業科では「課題研究」や「総合実践」において、地域連携の取り組みを推進している。

- (2) 提言：地域活動に参加し、自分の得意な分野を活かす。

回答：小中高で活用している「キャリアパスポート」において、今年度からはFeel Noteというサイトを用いて電子化し、活動の振り返りや自覚化を行っている。

- (3) 提言：地元に戻れる人材を育成する。

回答：1・2年生のインターンシップは現状は高卒者用の就業体験にとどまっているが、大卒者用の業務も視野に入れていただけよう提案してみたい。また、他校ではOBやOG（地元企業の経営陣等）による面接指導などを通じて、企業と生徒の相互理解（距離感を縮める）を深める取り組みもあるので、参考にしたい。

- (4) 提言：ぐんまイノベーションアワードに参加する。

回答：今年度、商業科の生徒がビジネスプランの分野で参加し、アプリ開発でファイナルに進出した。現在、グランプリ獲得に向けて調整中である。

- (5) 提言：商工会等の展示スペース活用をする。

回答：館林アゼリアモールの連絡通路にて、今年7月から工業科の制作物や商業科の活動紹介パネル、学校案内リーフレットを展示している。明和町内ではまだ行っていない。

3 熟議 テーマ「学校からの効果的な情報発信について」

〔多くの提言のうち3つに絞って記載〕

- (1) グループ① 情報を発信する立場から

- ・SNSを活用する。動画等を生徒が自主的に作成する。ただし、教職員によるチェック機能も必要である。
- ・紙媒体も意義がある。SNSは個人利用になりがちだが、紙媒体だと、家族で共有することができる。そして、紙媒体から動画に誘導できるようにする。
- ・対面での出前授業を行うことで、情報提供と時間共有を図る。
- ・中学生に伝わっていないという問題を解決するために、公民館等でマクロな活動を中学生と高校生が一緒に行う。このことで、情報が入りやすくなると思う。

- (2) グループ② 情報を受信する立場から

- ・SNSで動画を発信する。その際、ターゲットを絞ったり印象的なものから示したりする。また、イメージキャラクターを作成できると良い。
- ・「館林商工高校で何ができるのか」を具体的に伝える。その際、商業科や工業科の特徴を伝えるだけでなく、「自立に向けた3年間」というような内面の変化を示すような情報を発信することもよいのではないかと。
- ・中学生や保護者にどのような情報を知りたいのかをリサーチしたうえで、情報発信を行う。